
俺たちの先生!!

美希マコト

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

俺たちの先生！！

【Nコード】

N9422S

【作者名】

美希マコト

【あらすじ】

俺たちの先生は、最高だ。

頭が良くて、カッコよくて、そして何より大人だ。

そんな先生は俺たち6年2組の男子生徒だけに、内緒で色々となにを教えてくれるんだ。主に女子についてだ。

「先生！どうして女の人は良い匂いがするんですか!？」

「いいところに目をつけたね水上君、実は先生もそのことについて疑問を感じていたところなんだ。」

「先生！で、その謎は解けたのですか!？」

「おお！山下君も興味があるのかい？そうだね、これについての一般的な回答として”髪やましたの香り”というのが通説なんだよね」

「へーなるほど!! x2」

「でもね、先生はそれだけじゃないと思ってるんだよ」

「と……いいいますと?」

「それを今日はみんなで考えよう。今日、わざわざ男子だけ集まっていたもらったのはそのためなんだ」

「先生……なんていい先生なんだ!」

「男心の探求者先生万歳!」

「さすが大人だぜ!先生カッコいい!」

「それじゃあ皆の意見を聞いてみようか、まずはそうだね……みづはら榎原君、キミはどう思うんだい?」

「いや…分かりませんが」

「榊原君！……！そんなはずはないだろう榊原君！……！何度でも言うぞ榊原君！……！先生は知っているんだぞ榊原君！……！」

「……何をですか？」

「キミは……キミはしよしよ小学校6年生の分際で……男女交際をしているそうじゃないですか！榊原君！……！どうなんだい榊原君！……！」

「なん……だと」

「お……おい、マジかよ　榊原、お前はもう第2章に進んでしまつてるのかよ」

「おい！榊原！……お前裏切つたな……！」

「うえーんうえーん（涙）榊原君がネクストステージに上つちやつたよー（泣き）」

「う、うるせーな、別にいいだろ……なんだつて」

「良くない……！それは良くないぞ榊原君！……キミは先生よりも上の階層の人になつたんだ、その世界を教えておくれよ……！さあ……！キミの見ている景色を皆に伝えておくれよ……！さあ……！」

「さーかきばら……！さーかきばら……！さーかきばら……！」

「わー……！わー……！俺の意見を言えばいいんだろ……！んー、なんか髪の毛の匂いの他に、なんか女の子成分が分泌されてるんじゃないですか？……！だつてウチの姉ちゃんも友達もテニス部なんですけど、部活の後で汗かいてるはずなのに、全然汗臭くないんすよ。それどころかスゲー良い匂いするんですよ」

「榊原君！！榊原君！！何度でも言うが榊原君！！き、ききききキミにはお姉さんもいるのかい……ハアハア」

「なん……だと」

「お……おい、マジかよ　榊原、お前は生まれたときから第三章だったのかよ……」

「おい！榊原！！お前裏切ったな！！」

「うえーんうえーん（涙）榊原君が雲の上の王国だよー（泣き）」

「べ、別にいいだろ……それくらい」

「……それくらい？榊原君　榊原君！！何度でも言うが榊原君！！今、キミは”それくらい”と言ったね　それがどういう意味が分かって言ってるんですか！！」

「それくらいは、それくらいだろ。姉がいるくら　」

「榊原君！！………ついでにもう1回榊原君！！！！先生はガツカリしました、1歩だけ譲って男女交際は許しましょう、でもね、でもね！！姉がいるなんて事はそれはそれは幸せなことなんですよ！！！！！！！！！！」

「先生……なんていい先生なんだ！」

「男心の探求者先生万歳！」

「さすが大人だぜ！先生カッコいい！」

「分かるかい？榊原君、姉がいない人たちの気持ちが……姉がいない人たちはね、姉がいない人たちは”お姉ちゃん”が大好きなんだよ榊原君。姉がいないという幻想が生んだものが”姉萌”と言ってもいい。それくら　あれくらい妄想が爆発してるんですよ姉がいない人はね！！！！榊原君！！」

「なん……だと」

「お……おい、マジかよ　榊原、お前は生まれたときから第七章だったのかよ……」

「おい！榊原！お前裏切ったな！！」

「うえーんうえーん（涙）榊原君が時のオカリナだよー（泣き）」

「榊原君……いや、榊原さん。先生はね、今脅えていますよ。天は二物を与えず　という言葉がありますね……どうということなんですか！！！！榊原さん！！あなたは何物与えられているんですか！？」

「ええ！？そんな……いるでしょ、俺だけじゃないでしょ！！」

「ふん、先生は知りません。榊原さんの今学期の保健体育の成績表は全て”努力しよう”に丸つけちゃいますからね！！ちよつと私生活が乱れすぎてます！！！！！！！！」

「そんな理不尽な　」

「お前が言うな！！理不尽なのはあなたです榊原君！！！！もう一度言いますけど榊原君！！」

「先生……なんていい先生なんだ！」

「男心の探求者先生万歳！」

「さすが大人だぜ！先生カッコいい！」

「もう、こうなったらね、先生は神にでも逆らいますよ！！神である榊原君にも逆らいますよ！！さあ！かかってきなさい榊原君！！」

「えー、そんな先生！？」

「かかってこないのなら、先生が先制攻撃を宣誓しちゃいますよ！

！」

「先生……なんていい先生なんだ！」

「男心の探求者先生万歳！」

「さすが大人だぜ！先生カッコいい！」

「ほら行きますよ榊原君！！」

「いや、先生何脱いでるんですか！？」

「先生に向かって皮肉ですか榊原君！！脱ぐ相手がない先生に向かっての皮肉ですか榊原君！！榊原君！！」

「先生、誰か来たらマズいつすよ先生！！」

「誰も来ません！！何も着ません！！くらええええー！私が神だあああああ！！」

「ちょっと男子いゝ？まだ終わらないの？私忘れ物取りたいんだけど……ど」

「きゃああああああ変態！！！！！！！！！！」

先生、あのね。

学校にパトカーがやってきたよ。

そしたら先生は捕まりました。だけど事情を説明した結果、今回はすぐに解放されたよ。

だけど、先生は1ヶ月間の謹慎処分らしいので、次に先生に会えるのは来月だね。

また先生の授業受けたいです。

おわり。

(後書き)

会話文のみで作ってみました。

これでは作者しか情景が浮かばないですよね……難しい。

ちなみに私は姉も妹もいますが……正直どっちも要らない。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9422s/>

俺たちの先生!!

2011年10月8日23時34分発行